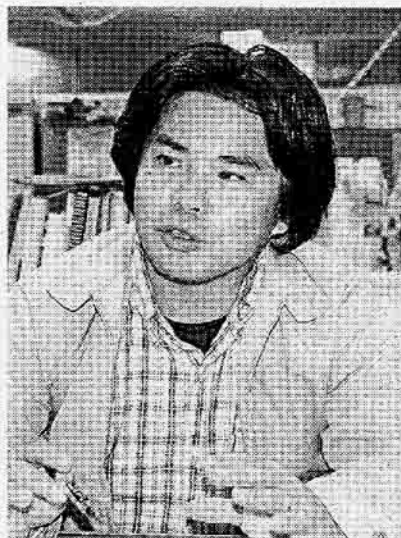


湖なる琵琶湖

悠久の歴史今に

琵琶湖の歴史をテーマにした毎週木曜日の新企画「びわこの考湖学」が10日にスタートします。これまで主に地域別、分野別に語られてきた「琵琶湖」を史的にとらえ、琵琶湖が日本の歴史に果たした役割を明確にしていきたいと思います。折しも昨年10月、琵琶湖最北部の塩津港遺跡(西浅井町)では、琵琶湖の水運にたずさわった人たちの息づかいが聞こえてきそうな起請文木簡が大量に出土しました。また、県文化財保護課は今年度から、自然遺産としてだけでは認められることが難しい世界遺産登録を、文化遺産として、あるいは複合遺産としてアピールできないかと歴史の「再編集」を始めています。このような琵琶湖を見直す機運のなか、歴史の最前線にいる県文化財保護協会の発掘調査員たちが、琵琶湖史の醍醐味をお届けします。執筆陣を代表して畑中英二さんに、連載企画の大まかな内容を予告してもらいました。



「考湖学」の連載に期待してほしいと語る畑中英二さん

湖上の覇権 天下統一の鍵

もに、日本海ルートも重要視されてきました。その中で、琵琶湖、そして大津が重要な役割を担っていたのです。

ようか。

瀬田橋は古代からありました。通常の旅行などの際には、渡る人は意外と少なかったよう

この時代については、10回目

江戸時代の交通といえは

古代の宮都

近江の歴史にとって琵琶湖とは、

まず、「琵琶湖をめぐる交通と経済力」をみてみましょう。

大津宮は、古代には全国で2カ所しかなかった「大津」の片方に置かれていました。もう一

香樂宮、保良宮といった宮都が置かれていました。これは畿内(山城、大和、摂津、河内、和歌山)以外では、極めて異例なこと、これらの宮が置かれた理由について考えることにより、琵琶湖の持つ意義を明らかにしていきたく思います。津から畿内を指す日本海ルートが、これら宮都が置かれた理由として、「琵琶湖をめぐる交通と経済力」「琵琶湖を經由して畿内の信仰」「琵琶湖の風景」を挙げることが出来ます。

大陸から畿内へ 交流の運河

急がば回れ

湖上交通の視点は面白い

当時の湖上交通の重要性については、「急がば回れ」ということわざがよく表しています。このことわざの語源は、「もの

草津市の矢橋港から大津市の石場港を結んだ船のことですが、この歌は、陸路に比べると風待ちをしないといけない不便さはあるものの、楽で速い湖上交通の方が、むしろ一般的だったことを示しているのではないで

仏教の聖地

滋賀県は、京都府、奈良県に次いで多くの国宝、重要文化財の数を誇る文化財の宝庫ですが、琵琶湖と関連はあ

す。聖武天皇はその神聖性にひかれて、紫香樂の甲賀寺で大仏を建立しようとしたのです。琵琶湖を取り囲む山々は、霊山、聖地として広く知られていますが、実は紫香樂を

天台宗の僧は、琵琶湖を「天台の池ぞかし」とあがめていました。また、京都を除くと近江の観音霊場の札所が一番多い者にはどのような琵琶湖が映

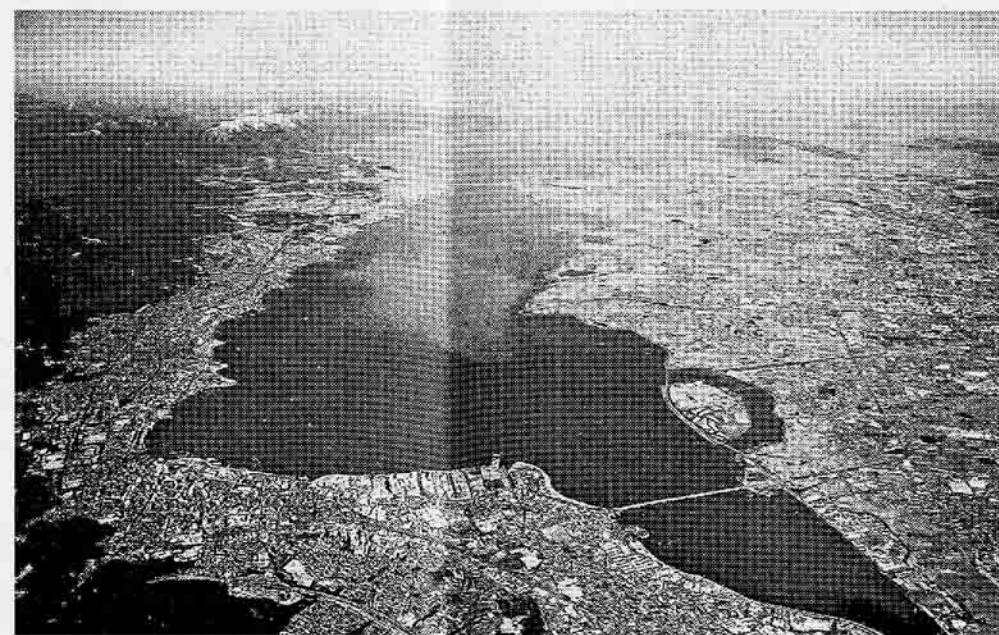
琵琶湖周辺からはパラエティに富んだ遺物が出土します。東西の人びとが盛んに交流した巨大な運河としての姿を想像させるとともに、琵琶湖をめぐる重要な出来事でもあったこと



塩津港遺跡と琵琶湖。中国大陸や北陸から運ばれてきた大量の物資や人が塩津港で風を待ち、大津に向けて出航した—西浅井町

新連載「考湖学」10日スタート

延暦寺と無縁ではありません。今や世界遺産となっています。近江でさかんな薬師信仰は、の文化、外国人などを対象と



日本の歴史のなかで大きな役割を果たしてきた琵琶湖 大津市上空より